

中野市行政改革推進委員会 会議録（内部用）

日 時	平成27年7月16日（木） 10：00～11：45
会 場	本庁舎31号会議室
出席者	【委員】 涌井純生委員、横澤順次委員、古川由美子委員、清水一夫委員、岡村郁子委員、上田實委員、小林千枝委員、小林日出夫委員、市村義明委員、湯本一委員、小林かず江委員 【市】 総務部長、健康福祉部長、子ども部長、くらしと文化部長、経済部長、建設水道部長、消防部長、豊田支所長、会計管理者、学校教育課長（教育次長代理）、議会事務局長 【事務局】 政策情報課長、行政管理係長、宮崎副主幹、青木主任技師
欠席者	【委員】 山田真寿美委員、東英司委員 【市】 教育次長
次第	1 開会 2 副市長あいさつ 3 自己紹介 4 会長、副会長の互選について 5 会議事項 第3次中野市行政改革集中改革プランの平成26年度実績及び達成状況の検証について 6 その他 7 閉会
資料	資料1 中野市行政改革推進委員会条例、委員名簿 資料2 第3次中野市行政改革集中改革プラン 進捗管理シート

1 開会

(総務部長)

2 副市長あいさつ

中野市の行政改革につきましては、持続ある行政運営を目指して、財政基盤の強化と施設の適正化を柱として、昨年の7月に第3次の中野市行政改革大綱を策定しました。その後10月には、具体的な取り組み項目と目標を定めた第3次中野市行政改革集中改革プランを決定いただいたところであります。本日は、そのプランに基づきまして、平成26年度に行った取り組み内容や実績等をご説明申し上げ、委員の皆様から忌憚のないご意見等をいただきたいと考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

現在、中野市版のまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けた作業を進めておりまして、日本全体で直面している少子化・高齢化ということで、大きな課題に対して、中野市の特徴を活かした戦略を策定してまいりたいと進めております。

3 自己紹介

(省略)

4 会長、副会長の互選について

- ・会長に上田實委員、副会長に古川由美子委員が選出される。

5 会議事項

第3次中野市行政改革集中改革プランの平成26年度実績及び達成状況の検証について

【会長】

それでは、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

(資料2を説明)

【会長】

質問、意見などありますか。

【委員】

6月議会があって、決算議会ということで、6月議会でどの程度審議されたのか説明をお願いします。

【総務部長】

6月議会の段階では、決算議会が9月になりますので、この件については議論されておられません。

【委員】

資料を拝見して、収納率が99%など色々あるが、この問題については議会の方でもチェックされる項目だと思うわけですが、我々がここで否かと申し上げても、のらりくらりと逃げられるということが分かってますので、かいつまんで申し上げますけど、今年の2月か3月の時に提示されました案件で、意見を申し上げていたのだが、その回答がまだ出ないうちに、今日また意見がありましたらというような用紙をいただきましたけど、結果の集約はどのように処理しているのか。既に、豊田地域のきのこ施設とか、情報センターとか、既に3回くらいこの審議会の席で議論されているように記憶しています。そのような議論の集約をどのように処理されたのかを伺いたい。

少子化に向けての概要であります。新庁舎建設だの、新保育園の建設とか、建設というものが非常に目に付くわけであり。現在、西町保育園が建設されまして、まだ、りんごっこの対応がどうのこうのと、民間では考えられないようなことを、このように羅列しているわけであり、これはどのような場で、どのように誰が決断するのかをお聞かせいただきたい。

【行政管理係長】

1点目の件についてお答えいたします。2月に開催しました行政改革推進委員会でご説明できなかった部分については、ペーパーで3月下旬に当時の各委員さんに配布しております。届いてないようであれば、改めてお渡ししたいと思います。

【総務部長】

新しい施設の建設が目につくというご質問についてですが、建設そのものはなるべく控えようという話して、ただ、庁舎に関しましては、今まで何回か説明させていただいた通り建て替えに向けて会議を進めております。りんごっこに関しましては、土地・建物を借りながら運営しているので、これから空いた施設が出てきたら、そのような場合にはそちらに動かして、借料を削減していくという計画であります。

【子ども部長】

保育園の建設に関しまして、保育所につきましては、保育所運営審議会にて審議をいただきまして、今のところ平成30年度までは整備計画を立てております。資料に記載のとおり、来年度についてはみなみ保育園の建設を進めたいと考えております。

【会長】

以前の質問に対する対応、少子化対策に対する建設、りんごっこの問題、保育所の問題等々4点の質問がありましたが、よろしいでしょうか。

【副市長】

質問の中に、誰がどのように決めるのかという質問がございましたが、責任は皆様に選んでいただいた市長。それに予算が伴うものについては、議会に上程をして認めていただいたものについては執行する。そういうことで、市長、予算が伴うものは議会の議決をいただくという形になります。

【委員】

6月後半に出された教育委員会の学校統廃合、適正規模等基本方針案についてですが、豊田地域審議会でも事前に議論されまして質問させていただいてあります。教育次長の言葉で、平成26年2月3日の会議に、審議会の答申があったら住民に説明をして、それから方針案を出すと申されました。去年の9月に答申され、今年の6月になってそれを出されたと、住民の意見を取り入れながら進んでいかなければ、住民感情もあるので、この辺のお考えをお聞きしたい。

【学校教育課長】

経過についてですが、先日基本方針案をお示しさせていただきました。この中で、適正規模の審議会の方で諮問いただいて、約2年間の議論をいただいて、昨年9月に答申書をいただいたわけでありまして。教育委員会では様々な観点から協議をし、その前に住民とのお話がありましたけれど、審議会の方で保護者を対象にアンケートをしたり、その中で意見集約をしております。今回、基本方針案としてお示しさせていただいて、8月下旬から各小学校単位で細部の説明をし、ご意見を伺いながら案を練り直す部分がありましたら、そういった形で進めてまいりたいと考えております。

【委員】

タイムスケジュールがありまして、11月に決定と書かれてありました。6月の終わりに出して、説明会が終わるのが平野小で9月30日。そうすると、地元の議員が意見を言える場がない。9月、12月と議会があつて、一般質問でその問題を取り上げたいと、この時に、議員も一言も発することなく決定されてしまう。庁舎問題もそうですし、施設の問題等、統廃合をしていく中で、住民を蔑ろにしたという言い方はおかしいですけど、説明の無いまま自然と決まってしまうというのは、後々禍根を残すのではないかと思うのですが、いかがでしょう。

【学校教育課長】

6月定例議会の前にも、委員会・全員協議会において議員の方に話ししまして、ご意

見をいただいております。基本方針案につきましては、スケジュールの方にも案ということですので、8月25日から11箇所まで9月30日までの予定ではありますが、説明会を開催しご意見をいただきます。スケジュール案では11月決定となっておりますが、これにつきましては、意見の内容について再度検討する機会もありますので、これが全て決定ということではありませんので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

【委員】

なかなか納得しかねるのですが、この問題については、以前から申し上げていて、教育委員会の説明では大変デリケートな問題なんではないかということがついてまして、議論するかと思えば、審議会があるのでと言われ、いざ審議会が終わったら11月決定みたいな、スケジュールだと、次年度の予算取りなどあるとは思いますが。逃すと、1年単位で遅れていくのかなと、わからないなりに想像するのですが、1年毎先に送ってしまうことは可能なのですか。

【学校教育課長】

市民の方に順次ご説明するのはこれからの段階で、これまではアンケートという形でご意見をいただいたわけではありますが、直接ご意見をいただくのはこれからですので、先ほど説明申し上げましたとおり、スケジュール的なものについては、今後の状況によりまして、十分変更もあり得るということでご理解をお願いいたします。

【委員】

関連しまして、前回の会議でも給食センターという問題が出されまして、ここには名前としては載ってなくて、2つの給食センターで中野市の給食が賄えるかと命題の中で議論があります。2センターに集約した場合、コンテナ等で能力を超えてしまうと資料に書かれている。現状の学校やクラスの数のままとありますので、もし百歩譲って、教育委員会の案が通りましたら、2センターで可能な数になるのか。

【学校教育課長】

プランNo.17でございますが、方針の決定ということで、今現在につきましては、3施設で運営してまして集約化は難しいわけではありますが、将来的な生徒数の減少は否めないわけですし、27年度の取り組みにもありますように、クラスや生徒の数について推測しまして、何時の時期に統合ができるのかという部分も含めて、今後方針を決定していきたいと考えております。

【委員】

目標では平成29年度での完了を目指しているわけで、それにはある程度、下にベ-

スがあると思われるのですが。

【学校教育課長】

市内に11小学校と4中学校がございまして、南部・北部・豊田の3給食センターでございすけれど、現状、現在の給食数からすると、一部のセンターでは合体してもという部分もあります。総合的に判断しますと、現状の学級数と給食数を勘案して、29年度になると、処理能力が2施設で対応可能かと、29年度を目標にそういった方向に持っていければと検討しております。

【委員】

食育というのは、中野市は農業を真剣にやっていて良いものがあります。食を子ども達に伝えようという団体が一生懸命食材を運んでいる。こういった食育という意味合いも勘案しながら決定していただきたいと思います。

【会長】

食育に対する要望でありますので、考慮いただき対応をお願いします。

【委員】

自主財源の確保のところで、目標値が100%でなくて、実績値とほぼ同数値の状況なのだが、前もって分かっているものなのか。

【総務部長】

前もって分かっているものでなくて、前年や過去の経過を勘案しながら目標値を立てております。実際には100%になることが一番良いことだと思いますが、なるべく努力して持ち上げることで、目標値を設定している。あらかじめ分かって決めているものではありません。

【委員】

下水道の収納率100%を目標にしている。98%などの収納率はすごいと思うし努力もされているかと思う。例えば、市税の収納率の向上では目標98.4%で、100%に対して1.6%の差は何か理由があると思う。努力の関係の中で、1.6%の収納が難しいと、その苦勞の状況をこういう場でも、他の場でも結構だが、徹底して説明していただかないと、何で100%の目標にならないのか。率直な市民の疑問だと思うのだが、その部分について説明していただきたい。

【総務部長】

細かな資料が手元に無いので恐縮ですが、どうしてもお支払いいただけない方、様々

な理由があります。中には、破産をされた方、行方が分からない方など、100%は難しいというのがあります。理由毎の比率はわかりません。

【委員】

納めていただけない方がいるとなれば、はっきりと何%と記載してもよいと思う。納められる能力がある方が納めていないのか、誰がみても無理だという状況の人なのかが、この資料だとわからない。個人情報もあると思うが、できればそのように改善していただければと思う。

【総務部長】

何とか工夫をしましてわかるような資料を別添でつけるとかさせていただければと思いますが、ただし、個人情報のこともありますし、可能な範囲で検討したい。いずれにしても、徴収が不納という状況が当然ありますので、わかる範囲でお示ししたいかと思っています。

【委員】

プランNo.30でデイサービスセンターの集約化とありますが、老人が増加して、健康老人だけでなく、デイサービスセンターは是非必要な施設ではないかと思いますが、集約化されて、民間と行政の経営では利用料金は異なるのか。

【健康福祉部長】

お答えいたします。民間のデイサービスセンターと、市の施設で社協に指定管理で運営している施設なのですが、利用料は介護保険法に則っておりますので変わりありません。中野市内に25施設のデイサービスセンターがあります。社協には3施設を指定管理に出しているが、その3施設の利用が悪いのか、経営状況等について詳細に分析しております。実際には、社協から聞いた話しでは、経営状況は良くないということで、利用者が少なくなっている。どうして減っているのか、独自にサービスを提供して利用者が増えている施設もあるので、その辺も含めながら社協と協議しており、どんな方向で集約したらよいのか検討している。

【委員】

プランNo.12の遊休資産の活用及び売却ということで、市の資産を有効に、例えば、ただ建っているだけだったら売るなど、色々な話しはあると思う。教育委員会の話しではないが、高丘小学校・平野小学校これが統合の目安となっており、徐々に人数が増えている平野小学校で、人数が増えているから建て替えると考えた時に、前の中野平中学校を売らなきゃ良かったなど、広い見地で長い目で見ながら、売ったり、そのまま放置したり、よく検討しなければ、その時お金が入ったからよいではない。長い計画のもと

にやっていってもらえなければ、再度どこかの土地を取得するのはお金がかかるし、資産をどうやって運用していくかを部等で検討しなくては、マイナスになることも考えられるので、よく検討していただきたい。

中野庁舎のこともあり、中野高校跡地のこともあります。予定が無くなり、現地で建て替えとか、様々な話しはあるが、外目に見れば庁舎を中野平中学校の跡地に建てれば、現庁舎の場所に市民会館を建てられる。大きな想像のもとでいかれないと、売ったり買ったりをしているようでは、市の資産も余分に掛かってしまうと思う。

【総務部長】

先を見通した上でどのような取り扱いをしていくかを決めていくことは重要だと思う。現状では、まとまった土地というのは、例えば学校等が統合された場合には跡地という話しもあるかと思う。ただ、上に建っているものを取り壊すだけでも、大きな経費がかかりますし、その財源をどうするか、財源問題も絡めた上で、検討してまいりたいと考えております。貴重なご意見として承ります。

【委員】

第3次行政改革大綱の人口減で4億円もの地方税が減少すると書かれているが、どういう根拠で4億という数字が出たのか説明いただきたい。

【政策情報課長】

ご質問にお答えします。行政改革大綱の中で、平成33年度に向かって人口減少により、平成26年度と比較をして、市税が4億円減少すると試算している。人口が減れば、税金を納めていただく方も減るので、その中で4億円の税収が減ると試算している。

【委員】

検証ばかりでなく、人口を増やすことも考えているのか。

【総務部長】

人口を増やすという難しい課題ではありますが、副市長の挨拶の中で申し上げましたが、まち・ひと・しごと創生総合戦略を中野市でも作っていきまして、その中で中野市版の人口ビジョンを策定することとして作業を進めております。これは、この先何年には、このくらいの人口にもっていききたいというビジョンを作るわけでありまして、少子高齢社会の中で、子どもの数を増やして、そのためにどのような施策を講じていくべきか。また、社会増といいまして、転入・転出者について、現状では転出される方のほうが多いわけですが、これをなるべく少なくして、転入する方を増やす。そのためにどのような施策を講じていくか。これらを網羅した計画として、中野市版総合戦略として策定していくとしています。素案ができた時点で市民の皆様に説明させていただく場を設けてい

きます。具体的には、子育ての関係で施策を講じておりますが、なかなか難しい課題である中で、施策としてはその辺に焦点を当てながら策定していきたいと考えております。

【委員】

何らかの形でしていかないと減るばかりだが、例えば、企業誘致も1つの方法だと思う。働くところが無いと生活できない。確かに難しいが、基本は働くところが無ければ人口は増えないと思うので、そういう方向も検討していただいて進めてもらいたい。

【会長】

企業誘致、雇用確保だろうと思うので、要望ということでお聞き取りください。

【委員】

人口問題が出ておりますが、26年まで小学校・中学校適正規模の審議会の委員として、極端な答申を出しておりました。皆様ご存じないと思いますが、北信ローカルなどを参考にした私の計算では、週に5人か6人の誕生で、52週ですので、約250人しか生まれていない。慶弔録を見ますと、大体9人か10人亡くなっている。トータルすると週で5人減っているのです、10年も経てば、中野市の人口は今より1万人減って3万2千人くらいになるのではないかという状況です。企業にきていただくことは大変有り難いことですが、この審議会でどのように地域を作っていくのかを、この行政改革推進委員会で考えていくことは非常に大事なことだと思う。要望することは、生意気ですが、この委員の構成に関して、各種団体となっておりますが、PTA・保育園の母親の会などから委員が選出されていません。非常に危惧しているのが、地区の民生児童委員の皆様方は、保育問題に熱心に取り組んでおりますし、老人の介護についても、実際のご意見をお持ちであります。我々の任期は10月で終わるわけですが、この人選の中に今より違った人選が可能かどうか。この審議会ができた平成17年からは10年経っており、社会情勢が変わっている。勝手な話ですが、人選を検討いただきたい。

資料にもありました市民満足度調査は、くだらないと思う。これは即、辞めてもらっていいのではないかと。回答を見ても、ロクな回答が出ていない。そういったことを踏まえて検討いただければと提案申し上げます。

【会長】

2点ありまして、この委員構成の人選見直しが必要ではないかというご意見、もう1つは市民満足度調査については、辞めた方がいいという意見がありました。この2点について事務局から回答をお願いします。

【総務部長】

人選については、今年の10月29日で任期満了となります。ここで、再度人選をさ

せていただくのですが、ご意見も参考に、また、当審議会の設置の主旨を踏まえた上で、検討を進めたいと思います。

2つ目の満足度調査についてですが、市民の皆様にとって満足度に影響してくるのは、職員の応対等々と思いますが、これをやることによって、どこを改善していけばいいのかということもさることながら、職員自身の市民に対する意識を、お客様であるという意識を啓発しながら進めていきたい。ただ、あまり効果が無いかとのお話でございますので、ご意見として検討してまいります。

【委員】

私は公募があつて応募したけれど、基本的には任期は1年であるのか。

【総務部長】

資料1に条例がありますが、4条で任期は1年と定めております。

【委員】

できれば3年くらいにして欲しい。何故かという、最初は資料を出されても分からなかった。1年だと分かってきた頃に終わってしまう。

【総務部長】

この場でわかりましたというわけにはいきませんので、いずれにしても、行政改革推進委員会条例ということで、条例に定めがあり、これを変えていくには、ご説明をして議会の議決が必要となりますので、検討させていただきたいと思います。

【副市長】

お許しをいただいて、ご意見ありがとうございました。いただいた意見、今日出なかった意見もお聞かせいただいて、より良い中野市にしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

1つだけご意見の中で、プランNo.43の小中学校の適正規模・適正配置について、年次送りができないかというところが気になっていました。

【委員】

年次送りできないかではなく、年次送りになってしまうのではないかと。

【副市長】

ご存知のように、22年、23年に地域に出向いてご意見を伺ったことがある。その時に、次回来る際には案を持ってくると指示いただいたため、今回基本方針案を作って、案の説明をさせていただく。先ほど学校教育課長が説明したように、その案に

ついてご意見をいただいて、改めるところは改める。年次送りについてですが、今年、入学者が3人という学校が出てきてしまった。これについては、6年前に生まれた時に集計していれば分かったことではあったと。そんな中で、子ども達のハードでないソフトな教育環境を1日でも早くと考えており、出来るだけ早い時期に改善ができればと考えている。教育委員の皆様にも、先日総合教育会議という会合をさせていただきました。市長と教育長が懇談する会議なのですが、その中でも話しが出てますので、1日でも早く解消できればと考えてますので、よろしくお願い申し上げます。

【委員】

豊田地域審議会をさせていただいた時から、絶えず言っていることは、小学校・中学校は地域の拠点施設だと。減ってきたから適正化を考えるのは教育委員会かもしれないが、適正配置は経済の面や色々な面を考え市全体で、あそこが人口減ってきたから何とかしなきゃいけない、崖崩れが起されれば対策する、人口減った時に減ったから統合だ、そんな話しは無いだろうというのが私の考えである。だからこそ、時間をかけて地域の方と、人口が減る原因や対策を突き詰めながら、地域の人と考えていかなければいけない。日本創生会議で選択と集中をテーマにされた様だが、それをされれば、この中野市も無くなってしまう。みんな都会に出て行ってしまう。先ほどの話、案がないから案を示してからと言われたが、9月に説明会やって、11月に決定は無いと言われたけれど、住民にも様々な意見をお持ちの方がいて、それを地域の意見として集約して出す、ただあまりにも時間が少ない。そこを分かっていたいて、とどのつまりは議論が重なれば日程がずれる可能性があるということを言わせていただきます。

【会長】

十分時間をかけ、地域と対話をしながら進めて欲しいという要望であります。お聞き取りいただき進めていただければと思います。

【委員】

教員住宅の件ですが、空き部屋が多くあるとしてあります、5棟のうち1棟を普通財産として所管換えし4棟で運営とありますが、どのくらいの規模の施設なのか。仮に用途換えをされたなら、一般市民も借りることができるのか。また、市民が借りることができるような用途換えはあるのか。

【学校教育課長】

小田中団地ですが、A棟からE棟まで5棟あり、教員住宅としては20戸あり、現在14戸に利用いただいており、6戸空いている状況です。普通財産に所管換えになったものは、民間の方に利用いただいている。教員の方は人事異動で頻繁に動かれるわけですが、現在は自宅から通われている方が多い状況で6戸空いている。職員の人事異動の

関係でございまして、遠くから赴任されれば利用率が上がる。非常に難しい部分ではありますけれど、それにしましても利活用の部分については普通財産の方へ活用を広げていきたいと考えている。

【委員】

意見ですけれど、家族を連れ転勤してきたが、小学生の女の子と年長の男の子がいて、非常に感じるのは中野市に来てよかったなと感じている。土日のイベントや先日の合併10周年の記念コンサートや、いろんなイベントがあって良いなと思う。

中野で仕事をし感じていることが、人口減少の問題は、20代がボトムになっていて、30代になって東京に出ていた方が戻ってきているのだが、そこからが問題で、飲み屋の若手経営者10名位で会合をしているとか、2代目の次期社長になる方々が集まっているのだが、その人達が本当に中野を向いているのかなと感じる。要は、何かあったら長野に飲みに行ってしまうのではなく、飲み会の中野、乾杯は中野の酒くらい、こだわってやっていくべきだと、この30代、40代の方は分かっているけれど、それが伝播していかないところがあって、仕組みづくりなのかと思う。先ほどの企業誘致の話も、行政だけでやっても無理であって、官民一体となってやっていかなければならない。八十二銀行も地域活力創造銀行として長期計画を謳ってやろうとしている。今こそ本気にならなくてはならない。20代、30代がもっといきいきできるような、知恵はないですけど、活力を与えてもらえればと考えております。

委員の選考についても、この会議に20代とか30代の若手が入っても面白いんじゃないかと、今日の会議で感じたところであります。

【会長】

前向きな積極的な地域に対する想いが出た、行政でも取り入れていただき参考にしていただければと思います。20代、30代の若者がこのような会議で発言できるように、定着できるようなものを作っていただければと思います。

ほかに、無いようですので、以上で議題を閉じたいと思います。ご協力いただき誠にありがとうございました。

では、次に「6. その他」について事務局よりお願いいたします。

6 その他

- ・第3次集中改革プランは市公式ホームページで公表する。
- ・次回委員会は、平成27年度の取り組みの中間報告について検証していただく。
- ・任期が平成27年10月29日で満了となるため、新たな委員を選任するべく作業を進めている。公募、団体推薦などをお願いすることになる。

7 閉会

終了 11時45分